

首都機能移転県民フォーラム（塩谷地区）開催結果の概要について

1. 日時・場所

- ・対象地域塩谷地区（矢板市、塩谷町、氏家町、喜連川町、高根沢町）
- ・平成9年1月27日（月）午前10時～午後1時
- ・矢板市「ホワイトウェディング御嶽」

2. 参加者

- ・コーディネーター（宇都宮大学名誉教授馬場信雄氏）
- ・意見発表者（地区内市町村の各種団体等の代表）12名
- ・主催者側（県民会議幹事、事務局）11名
- ・随行、市町村職員、一般等130名

3. 意見の概要

- 意義などに関する意見 -

- 首都機能移転に関しては、我々国民が等しく、将来とも安心して生活できる国家であってほしいという視点から賛成である。
- 危機管理上では移転の必要性を認めるが、政経分離や行革などは首都を移さなければできない問題ではないと考えている。
- 首都機能移転は、21世紀に向けた我が国社会の一大改革ということで、一極集中の是正、政治的にも経済的にも新しい日本を築くということからも重要である。栃木県のためにも、私どもの地域活性化のためにも、是非実現してもらいたい。
- 私たちの将来に対し幸せをもたらす計画に賛意をあらわす基本的な姿勢であり、那須野ヶ原地域が非常に適地でないかと考える。高度な教育、文化、福祉、医療、また、人と人との触れ合いがある首都になることに賛成である。
- 現在、村おこしなどで、過疎化している地域での苦労話を多く聞いている。首都機能が南へ行った場合には、まず過疎化現象が現れるのではないかと心配している。
- 高根沢町として、農工商の調和のとれた、また、総合的に定住条件の整ったまちづくりを進める中で、那須地域への首都機能移転に期待するものは極めて大きいものがある。
- 首都機能移転は、圏域16市町村はもとより、周辺地域の発展や活性化につながり、人や歴史、文化、自然も含めた地域の大事な資源を生かすことにつながると考えている。
- 国家百年の大計として、我々の孫子のため、また新しくこの地に入って来る生活者が安心して住める地域にするためにも、県を挙げて、様々な議論を通して、夢のある栃木県をつくっていく必要がある。県北への誘致を成功させてもらいたい。
- 首都機能移転は、栃木県、特に那須地域に将来の定住人口を確保し、繁栄という大きな財産を生み出す有史以来のチャンスであり、課題等についても慎重に検討していく必要はあるが、現時点では、マクロな視点で議論を進めていくことが必要であると考えている。

- 課題に関する意見 -

- 首都機能移転の内容について、その姿がなかなか国民に見えてこないことに不安を感じる。「小さな政府」「政経分離」「行政機構改革」「地方分権」などの具体が見えない。
- 自然対人といった構図ではなく、人も自然も大切であるといった立場である。人も自然も共生できる地域づくり・地球環境が大切なことだと考えている。

- オオタカは食物連鎖の頂点にいる。オオタカを守ることによって、その地域の環境を守ることになる。
- 都市と都市との間の今自然が残っているところに新たな数個の都市ができるということになれば、オオタカの生息地が分断されるなど大きな影響が考えられ、もろ手を挙げて、是非那須へという気持ちは毛頭ない。
- 移転問題は、自分にとって利になるか、経済効果がどれくらいかということであり、大型店の進出等により、地元の零細企業・商工店主がひどい憂き目をみるのではないかという懸念がある。
- 首都機能が移転して、生活環境がどう変わるのか、人づくりはどうなるのか、まちづくりはどうなるのか、見えてこない部分がある。自分とのかかわりでのメリット、デメリットが見えてこないと盛り上がらないのではないか。
- 自然災害のない安全な地域、東京からの距離、東北新幹線・東北縦貫道など交通の利便性、広大で平坦な地形、用地確保の容易性などを考えると、那須地域は最適地であり、すばらしい首都ができると考えている。
- 農業者の立場で考えると、大消費地ができて流通経費の削減や消費の拡大といったことから大きなメリットが期待できる。反面、優良な農地、山林がかなり失われることや水問題等には不安がある。
- 若い人や子供がいる世代が非常に増える中で、老人や恵まれない方が下積みされるのではないかという不安がある。この点も移転計画の中で考慮してもらいたい。
- 那須地区に全部の機能が集中せず分散した形で移転するのであれば、また、環境問題についても地域の人達の意見を十分聞いて進めていくなれば、土地の問題、地形の問題、災害の問題等含めても十分実現可能であると思う。
- 零細企業の保護的な問題についても、法的な改善も含めて検討いただきたい。
- 現在の那須地区は果して水が豊富なのか。那須地区は、分水嶺が近く、奥行きがない地形のため、確かに1年間の降水量では水は十分だというけれど、みんな流れてしまっている。都市を移転して水を十分に使うには、川の奥行きが深い地域が適当だと考える。
- 「都市化になれば、その土地の地主は3代で土地がなくなる。」そういう意味で、ただ都市化になれば、国会が来ればここは豊かになるというのではなく、慎重に考えるべきである。
- 自然は元金である。だから元金を崩してはいけない。自然の利息で生きていくべきである。
- 自然保護というのは人間の思い上がった言葉だと思う。自然と共に生きる、自然の片隅で自分たちも生かしてもらってるんだという意識が大切である。
- 移転を考える場合は、「水と光と人の心」が基本であると考えている。水問題、爽やかな空気、すなわち環境問題、新旧住民の融和がうまくいけば、スムーズな移転がなされるのではと考えている。
- 土地の投機、開発規制、自然保護、水の問題、交通システム、ごみ問題、新旧住民の心の触れ合い、生活環境等々、これらの問題は受入れ側がどのように考えていかなければならないかが重要であり、上からの押し付けや強制では解決しないと考えている。
- 首都機能移転に絡んで、市町村の合併問題が出てくると考えられるが、関係市町村間で未来都市や合併を視野に入れた協議を始めるべきではないか。
- 那須地域に国会が来れば商工業者にとっても大いに夢の膨らむ話であるが、それだけで語ったのでは片手落ちになるのではと思う。
- 移転によって流入してくる商工・サービス業などを法整備の中で規制、調整し地元と共存共栄が可能か不安である。
- 21世紀の模範となる新首都をつくるのであるから、つくり方も進め方もふさわしいものでなければならぬと考えている。性急すぎて議論がなされていないのでは、旧態依然のトップダウン方式なのでは。
- 一極集中の是正など移転については、大筋で賛成であるが、進め方やつくり方が旧態依然ではないかと

という気がする。

- 那須地区ばかりでなく、栃木県に広範囲に各機能を配置する必要があるのでは。
- 国会が那須に来れば活性化にもなるし、地域振興にもつながると思うが、底辺で暮らしている人々の意見をどれだけ聞いているのか疑問である。ボトムアップによる移転がポイントである。

-要望に関する意見-

- 首都機能移転といった歴史的チャンスを生かし、世界に誇れる栃木の自然と共生した快適で活力ある生活を送れるまちづくりを推進してもらいたい。
- インフラや住宅関連といった生活環境の整備のみでなく、地方の持つ文化、歴史、伝統を生かし、人と人が結びつき、本来の人としての愛を大人はもちろん、次代を担う子供たちへも伝えられるような新首都づくりを進めるべきである。
- 那須地域と県央、県南地域の県民との間で、首都機能移転問題に対する温度差を感じる。2つの栃木ができてしまわないか、栃木に1つの別の国ができてしまうのではないかと心配である。今まで以上に、情報提供、生の声を聴く機会を設け、それらを反映できるシステムづくりをお願いしたい。
- 栃木県民が首都機能の移転により、いままで以上にふるさとに誇りが持て、強い絆で結ばれることにより、1つの栃木がつくられることを願っている。
- 豊かな生活、安全で危惧のない生活を送れるような首都移転の方法を考えてもらいたい。
- 21世紀を見回したとき、子供の問題、青少年の問題を踏まえた環境づくり、支援活動をお願いしたい。
- 移転によって都市の文化の移入による変化が予想されるが、それらに対する配慮もお願いしたい。
- 今までの国の開発を見ると、国主導型の押し付け的な開発になっていて、住民とのコンセンサスが十分にとれていないように思われる。国会移転が那須に決まった場合には、栃木県が主導して、市町村主導型・住民主導型の体制を早めに取りってもらいたい。

-その他の意見-

- 国会移転問題に限らず、これを契機に国民、県民、住民が下から意見をどんどん出していけるシステムづくりが必要であると考えている。
- このような場に女性が1人しかいないで少し寂しい感じがする。男性の方々は大きな視点で物を見ているが、女性の生活に根ざした細かい視点での議論も必要ではないか。その分、女性もしっかりと勉強しなくてはならないと思う。

-意見交換における主な意見(要旨)-

- 黒磯市岩崎地内で新規の宅地開発には市営水道が給水されないという話を聞いたが、移転を前提に、水を制限しているのではないかと懸念を持っている。
- フォーラムの開催について、日曜とか土曜の午後とか、一般の人が集まりやすい日に実施しては。
- 自然環境の保護については、国の法制化が望まれるし、もしも間に合わなければ県の条例で対応するため、原案作成中であるとのことですが、どの段階になれば原案をお示しいただけるのか。
- 国会が那須に確定する可能性というか、確率はどのくらいか。
- 他県に負けないう一生懸命誘致運動を頑張っていたきたい。
- 首都機能移転と並行して、断行すべき制度改革派積極的に行い、法も制度も改革して我々国民を説得するだけのものを提示すべきではないか。
- 水の問題についても、栃木県だけでなく、近県の水源もあるのではないかと。極端に言った場合、宇都宮や日本の水源等も頭に入れておくべきではないか。
- 女性も半分いるわけですから、こういう段階から参加させていただければと考えています。